

文部科学省の

「研究大学強化促進事業」に採択！

世界レベルの研究拠点たる

リサーチ・ユニバーシティ岡山大学を推進

岡山大学は今年8月、文部科学省が大学の研究力向上を目指し本年度創設した「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択された。今年度から10年間にわたり毎年2億円の助成を受け、大学全体の研究環境整備に取り組む。山本進一・研究担当理事に採択に至った思いや今後の具体的な活動方針・目標について聞いた。

世界で研究の量、質ともに
存在感を示す大学に

一定の理解を有しつつ研究資金の調達・管理、知財の管理・活用などを行う人材が十分ではないため、研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあり、改善するため文部科学省は2012年に「リサーチ・アドミニストレーター（URA）」を育成・確保するシステムの整備」を始めた。URAの運用はそれによるところが大きい。岡山大学は自己資金でURAを採用し、同年9月、リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学という地位を確立するための研究方針の策定や大学改革の推進支援を役割とし、経営的判断に立つて行動する「戦略的プログラム支援ユニット（URA）」を設置した。同事業採択においては申請のための情報収集やデータ解析、申請書作成、ヒアリング対応などでURAが果たした役割は極めて大きく、URAがいなければ採択されなかったと言っても過言ではない。

―具体的な活動方針は。

岡山大学が世界においてトップレベルの大学となるためには、現在の岡山大学が持つ強みを生かすことが重要だ。すでに実績があり、世界レベルの研究分野である物理学と基礎生命科学を軸とし、「極限量子」「超伝導・有機エレクトロニクス」「生体光変換システム」の3つの研究拠点をフロントとして強めながら、新設する研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構（G研究機構）」を中心に研究に専念できる制度

改革、研究者支援人材としてのURAの増強や実力のある研究員の招聘、国際共同研究の推進、産業界との大型連携の強化などに取り組み、研究活動の一層の活性化につなげる。特に物理学、基礎生命科学分野においてはその強みを伸ばして世界で量（論文数）、質（相対被引用度）ともに存在感を示し、日本の研究活動の牽引大学になることを目指す。そして、その成果を全学的に波及させることにより、岡山大学全体の研究力を向上する仕組みを構築したいと考える。

―リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学への実現に向けて。

岡山大学には磨けば光る「宝石」が数多くあり、今後の伸びが大いに期待できる。幸いにも岡山大学はSpringe、X線自由電子レーザー施設SACLA、スパコン「京」など国家基幹技術の施設に近く、その分野の研究も行われており、それを生かさない手はない。同事業をはじめ、今年4月には岡山大学病院が厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に、10月には岡山大学のアドバンストナノカーボン複合構造材料研究開発センターが文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」に採択された。この3つすべてに選定された大学は全国で7大学（厳密には8大学）だけだ。とても誇らしいことであり、研究力強化の「三本の柱」がそろったわけで、研究大学強化

―文部科学省の「研究大学強化促進事業」に採択された。どうとらえているか。

同事業は世界水準の研究力を持つ大学・機関を強化することで国際的な地位が低下している日本の研究競争力の向上を図る狙いで、支援対象に22の大学・機関（17国立大学、2私立大学、3研究機関）が採択された。岡山大学が選ばれ、研究担当理事としては正直ほっとなしている。中四国地方では岡山大学と広島大学だけであり、より研究に重点を置くというミッションが文部科学省に認められたということはある意味で岡山大学の研究ブランドが確立されたといえるだろう。今回の選考方法は文部科学省が行ってきたこれまでの競争的資金制度におけるそれとは異なり、誰もが自由に応募できるものではなく、科学研究費等の資金獲得状況、論文の引用度、国際共著論文の数、産学官連

―採択決定に尽力したURA（リサーチ・アドミニストレーター、University Research Administrator 略）とは。

大学などにおいて研究者とともに研究活動の企画や研究成果の活用促進などを総合的にマネジメントできる研究開発に知見のある人材のこと。日本の大学・機関では、研究開発内容について

促進事業では基礎研究を、臨床研究中核病院整備事業では研究による社会貢献を、COI STREAMでは研究による産学官連携をそれぞれ強化していきたい。文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定されている資源植物科学研究所（植物研、倉敷市）、地球物質科学研究センター（地球研、鳥取県三朝町）

など大学附属の研究施設、研究センターの研究実績も研究力改革を推進するうえで忘れてはならない。基幹的総合大学における研究の多様性を保ちながらも強みの研究領域を伸ばしつつ、社会に影響力のある成果を生み出したい。

